

こは小柿とて小川の城を小川孫市降参を遠國小宗を織田の種
威ハ怒虎が紀行を破るが像く同づく二日ハ常樂寺 蒲生あり 小陣
せふれ 魁軍小令とて西浦の城を攻まを小宗是會一撥の攻城を
まバ防衛する力をなく城を閉て落失する十日ハ瀬田小宗とれ
山岡良濃が方へ所投ある遠响織田家の老臣軍不審なる小
よつて急條をさく君別々を攻させざるを西南のふと亦もふり
再び上洛のおがしめし小や 新軍急いとも同まおきて信長先兵と笑の
せ至ハ叶愚あり汝儀ハ大敵希小宗と事を急を急に
かれ柿比叡山延暦寺ハ帝都法護の山と辨し 放送程慢小威
を奮ひ却て朝敵小純幸と初命台命をも用ゆる事あり惡逆を道
の山徒あり 遠响滅亡をさむんバ何時とる期をぶは事あらん是より直

ハ五付四教と
ハ五付の
華義 聖
法舎 註
方等 註
般若 註
法苑 註
の經を流
るは五時と
りハ
四教ハ
義。道。別。
圓。此。也。
抄。秘。教。
不足を以て
八教とを以
佛の四教に
依り余が
業方のかし
義通列圓
ハ化法論の
業味のり

小坂ハ推進を延暦寺と焼拂ひ之千法衆徒を慶小宗而悔久
とさくまどと度摩を小宗とて依久間信盛の智光秀列同練
かくともやうそま比叡山延暦寺ハ顕教密教兼て修学ハ其時四
教とも小宗は大道場小と文武西門の祈願するまは亦小宗又
掲ぎ。是小依く往古より弘隆の併成を朽して大衆依我意小強
ふ系といども王法小も是を制せらるを然るを遠般一掃小此空場と
没滅なさら天下法人の望小甘ん去年敵徒と馳走し當家(敵討)と
せし事最も惜き暇なきが出家の族小ハハ當り後患もあるは此
小之宝の尊徳小免と至ヒ燒棄る多小命令ハ枉く堪忍ある所
やと弱を竭て諫言をれども信長更小所答をて同月十二日の
曉天より搦軍せりて推登り 孫小宗大なる天台山と雲霧の像く